

事業報告書

事業名 障がい者スポーツ推進事業

- ・ボッチャ普及講習会
- ・ボッチャチャレンジゲーム



1 実施団体

障がい者スポーツクラブ HIMAWARI

2 担当課

スポーツ推進課・障がい者福祉課

3 実施時期

平成28年12月23日（金）

4 参加者

講習会・チャレンジゲーム参加者

15名（身体障害者 2名 知的障害者2名）

講習会のみ 7名

チャレンジゲームのみ 4名

（知的障害者1名 身体障害者1名 内部障害者1名）

5 実施場所

青梅市総合体育館 第2ホール

6 事業の目的

障害がある人とない人が一緒にルールを覚え、練習を行い、また、その練習の成果を発揮できる場所を一緒に作っていくことにより、障がい者・高齢者等の体力維持、やりがいにつなげていくとともに障がい者スポーツの普及を図っていくことを目的とする。

7 役割分担

・団体の役割

- A ボッチャ普及講習会およびボッチャ地域交流大会の計画・実施
- B シッティングバレーボール国内審判員養成講習会の計画・実施
- C 関係団体との連絡調整
- D マスコミへの広報依頼

・担当課の役割

- A 情報提供
- B 広報周知
- C 会場確保
- D 事業実施への協力
- E その他必要な事項

8 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

ボッチャのルール・練習方法を勉強して、参加した人全員がゲーム進行出来るようになった。講習会後も何度か練習し、多摩障がい者スポーツセンターで開催されたボッチャ大会に参加できるまでになった。

その後も 高齢者にボッチャを体験してみたいと問い合わせがあった。

9 目標達成

事業の目標：

障害がある者となない者が一緒にルールに則ってボッチャを学び、試合形式練習会で本来のボッチャの楽しさを実感してもらうことを目的とする。

目標の達成具合：

講習会に参加した方への達成具合は70%

ボッチャ普及に関しては 10%

10 事業の実施内容

午前は 公益社団法人 東京都障がい者スポーツ協会に講師を依頼し、コート設営から練習方法、ゲーム進行まで講習指定いただき、ボッチャを楽しく始められる方法を学びました。

午後は 2人 10チーム を作り 4エンド時間制限なしの内容で、時間一杯、ゲームを行う。

講習会を受講した方から順番に審判を行っていき、最後は全員審判できるようになった。

11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目	団体	担当課
(1)事前の話合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	3	3
(2)事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
(3)協働の役割分担は適切だった	4	4
(4)協働相手は適切だった	4	4
(5)対等な立場での協力関係を築けた	4	4
(6)協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	4
(7)事業実施は円滑になされた	4	4
(8)設定した目標が達成された	1	3
(9)協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
(10)今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	2

12 まとめ（今後の課題や改善点など）

☆参加した方々には成功した事業だった。

☆実施日の第1ホールではビーチボールバレーの大会が行われていたようだが、ポッチャをしているお知らせが上手く出来なかったからか、見学に来る方もいなかった。

☆リオパラリンピックで銀メダルになったから知名度もあがったのではと思い込んでいた。

- ・障害がなくても一緒にできる
- ・見た目は地味だが、実際に体験してみると意外に面白く、ハマる種目という楽しいスポーツをもっと押していきたいと思います。

これを機に 青梅市でポッチャ地域大会が出来るように普及に力を入れていきたい。

そこから 2020年東京大会を目標にする選手をみつきたい。

13 その他

ご協力いただいた スポーツ推進課・市民活動推進課のみなさん
ありがとうございました。